

飼育方法：成体

成体の飼育環境 飼育水槽に，生息地の砂もしくはガラスビーズを，深さ約 1~15 cm になるように敷き，ナメクジウオが潜れるようにする．砂は真水でよく洗い，3%過酸化水素水で消毒し，乾燥してから使用する．ガラスビーズは粒径 2~3 mm のものを，真水で洗い乾燥して使用する．砂やビーズは，深いほどナメクジウオが自由に動き回り，縦になって餌を取るのも容易になるが，全身が触れている程度の厚さがあれば十分である．ナメクジウオは光に敏感なため，飼育水槽は暗所に置くか，アルミホイルなどで覆い暗くする．黒色のポリカーボネート水槽を使用するのもよい．

エアレーションと適度な清掃により，深さ 15 cm x 直径 10 cm の小型容器で 15 匹程度の成体を飼育できる．この場合，1 週間に 2 度は，砂かビーズを軽く混ぜ，糞を出して掃除する．もし，潜ったまま死亡している，あるいは感染症にかかっている個体が見たらすぐに除去する．1 か月程度であれば，餌を与えずに飼育できる．その方が，水の汚れによる死亡や感染症の発生を防ぐことができ，良い状態に保てる．濾過装置は使わない．水中であれ底面であれ，ナメクジウオは隙間に潜り込むので吸い込まれ易いからである．

成体の餌 市販の大きさ約 10 μm の珪藻（キートセラス *Chaetoceros gracilis*）を用いるのが簡便である．生の海産クロレラを購入して与えることもできるが，キートセラスより高価につく．海産クロレラは，夏季の高温長日の期間なら，自分で培養することもできる．海水に園芸用の液体肥料ハイポネックスを入れ，透明なビニールで蓋をしてエアレーションし，日の当たる場所に置いて増やす．

市販されているクロレラや珪藻の乾燥品あるいは冷凍品は保存がきくが，沈殿して砂中のナメクジウオに大量に飲み込まれると，咽頭に詰まったり，内臓破裂の原因になる．ごく少量の使用と頻繁な清掃が必要である．

病気 ナメクジウオの死因は感染症が一番多い．発見した時には，他の個体にも伝染していて，全滅することもある．感染すると肛門付近から赤くなり始め，腹側前方に広がり，感染した細胞が壊死する．そうなっても，運動性が残っていて元気に見えることがあるので注意が必要である．感染個体は見つけたらすぐに取り出す．感染初期なら，それぞれ 1 万単位/100 リットル/週になるようなペニシリンとストレプトマイシンの処置を数回繰り返すと，治ることもある．